

会報

第 116 号

平成30年 2月20日
新潟県特別支援教育研究会事務局
新潟市中央区白山浦1-207-3
新潟市立鏡淵小学校内
Tel 025 (265) 4111
Fax 025 (265) 4112
発行: 文 久 堂

教育の不易と流行



新潟県特別支援教育研究会
副会長 新崎 俊博

昨年三月末に新学習指導要領が公示された。学校現場では、移行期の教育課程に準備が進められています。私が勤務する小学校でも、外国語・外国語活動の時数をどう捻出するか、道徳の教科化に向けて、評価はどうなるのか、学校全体のカリキュラムをどう見直すか、何度か研修を重ねているところだ。さて、新学習指導要領では、特別支援について、大きく紙幅が割かれています。例えば、すべての教科等の指導計画の作成に際しては、「障害のある児童（生徒）などについては、学習活動を行う場合に生じる困難さに応じた指導内容や指導方法の工夫を計画的、組織的に行うこと」とされています。また、特別支援「学級や通級による指導を受けている児童（生徒）」について、個別の教育支援計画や個別の指導計画を作成し、効果的に活用する旨、記されています。これまでも、こうした教育支援計画や個別の指

導計画の作成については、努める旨の記載はありましたが、さらに一步、進めた記述となりました。これらは、インクルーシブ教育システムの構築を一層促す動きであることは明白です。ところで、今年度、何度か特別支援教育の研究大会や研修会に参加する機会を得ました。適正就学や社会的自立に向けた学校現場の綿密なデータの蓄積とそれに基づくきめ細やかな指導実践を目にするにつけ、特別支援教育の積み重ねを実感いたしました。

勤務校で、昨年の夏から秋にかけて、特別支援学級在籍児童と通常学級在籍の特別な支援を要する児童の具体的な支援方法や、就学指導についてそれぞれの保護者と面談する機会が何度かありました。児童の特性や保護者のニーズはますます多様化し、その対応の難しさを痛感する場面が多々ありました。教育委員会の担当主事からの情報や通級指導担当教諭等の専門的な知見をもとに、保護者に丁寧に説明を繰り返すことで、少しずつ理解をいただき、合意を得ることができました。

学習指導要領の変遷に伴い、様々な教育理念や教育内容がその都度取りざたされます。しかしながら、子どもの事実をもとに教育的ニーズを見極め、個に応じた支援を模索し、充実するということ、これはある意味、教育の不易の部分です。冒頭の外国語、道徳等の流行の部分とのバランスを適切にとりつつ、日々の教育活動に当たっていききたいものです。

最後に、この一年間、会員の皆様が、本県の特別支援教育の一層の充実にご尽力いただいたことに感謝申し上げます。

平成29年度 主な事業報告

評議員会

第一回 評議員会（5月31日）
第二回 評議員会（2月9日）

地区研究大会

・上越 地区 上越市北部大会（8月10日）リージョンプラザ上越他 約350名

・中越 地区 十日町・中魚沼大会（11月24日）越後妻有文化ホール 約180名

・下越 地区 阿賀野市大会（11月27日）笹神体育館他 約220名

・佐渡 地区 佐渡大会（8月21日）両津文化会館他 約250名

知的障害部研修会

・知的障害部 秋葉区文化会館（8月7日） 約200名

・自閉症・情緒障害部 中之島文化センター（8月4日） 約210名

・肢体不自由・病弱・身体虚弱部 今町小学校（8月4日） 約50名

・言語・難聴部 上越市民プラザ（7月31日） 約100名

主特連関係

・関係機関 東京大会 提案者、司会者各1名

・全国大会 新潟大会実行委員長、事務局派遣 提案者1名、副会長、事務局派遣

・全国大会 山口大会 提案者1名、副会長、事務局派遣

・全国大会 山口大会 提案者1名、副会長、事務局派遣

・全国大会 山口大会 提案者1名、副会長、事務局派遣

・全国大会 山口大会 提案者1名、副会長、事務局派遣

・全国大会 山口大会 提案者1名、副会長、事務局派遣

・全国大会 山口大会 提案者1名、副会長、事務局派遣

・全国大会 山口大会 提案者1名、副会長、事務局派遣

・全国大会 山口大会 提案者1名、副会長、事務局派遣

・全国大会 山口大会 提案者1名、副会長、事務局派遣

・全国大会 山口大会 提案者1名、副会長、事務局派遣

・全国大会 山口大会 提案者1名、副会長、事務局派遣

・全国大会 山口大会 提案者1名、副会長、事務局派遣

・全国大会 山口大会 提案者1名、副会長、事務局派遣

会報 115号発行（7月）
会報 116号発行（2月）

平成29年度 各地区研究大会 報告

上越地区・上越市北部大会

大会主題「一人一人が輝き、共生社会の実現を目指した途切りのない指導・支援の在り方」のもと、学校関係者のみならず、保護者、地域住民、福祉関係者など、上越地区を中心に三百名超の参加を得て開催しました。

六つの分科会では、話題提供者からの実践発表や、質問や意見交換、そして、小グループによる協議を行いました。参加者は日頃の実践や成果、課題などを活発に話し合い、最後に各アドバイザーから分科会テーマに沿ったご指導をいただきました。多くのヒントを得る実り多い協議になりました。

開会式後の全体指導では、県教育庁義務教育課特別支援教育推進室の正田敦士様から「新潟県における特別支援教育の現状と課題」についてご指導いただきました。「合理的配慮の提供」や「交流及び共同学習の推進」など、本県の指導の方向を明確に示していただきました。

そして、星槎大学大学院教育実践研究科准教授の門部利彦様から「教育のユニバーサルデザインと合理的配慮」と題し、教室環境、授業、人的環境のユニバーサルデザインについて全く新しい視点から具体的にご講演いただきました。日頃感じていた疑問に直接答えられる実践的なお話は、「明日の学級で生かしたい」と感じる素晴らしいものでした。教師の指導意欲を高め、授業に役立てることができるとなりました。

(事務局 上越市立谷浜小学校)



中越地区・十日町中魚沼大会

「一人一人の生きる力を育てる特別支援教育を目指して」を大会主題に、十日町・中魚地区の特徴である「連携」を取り入れた「社会的自立を目指す連携の在り方」を副題として、分科会と全体会を行いました。

開会式では、十日町市教育長蔵品泰治様から、ご祝辞とご激励をいただきました。

分科会は、「連携」をキーワードに①「幼保から小へ、小から中への連携」②「小から中への進学に関する連携」③「通級指導の連携」④「通常学校と特別支援学校の連携」⑤「中学校の進路指導と校種間の連携」の五つを設定し、実践発表と小グループの協議を行いました。小グループのため発言がしやすく、日頃の悩みや有効な実践など、有意義な話し合いが行われました。その後、各分科会の指導者から、具体的なご指導をいただきました。

全体会では、新潟大学教育学部の有川宏幸教授から、「関係機関との連携支援について」という演題でご講演をいただきました。連携する際には、「教育者としての専門性を高め、チーム力を高めておくことが前提条件であること」「一人一人のニーズをよく見取り、ニーズに合った関係機関と情報交換を密に取りながら丁寧な対応をすること」等のご示唆をいただきました。

当日は、十日町市に完成したばかりの近代的な施設「越後妻有文化ホール段十ろう」を会場に、中越各地から約百八十人の参加者がありました。参加者アンケートでは、九十七%の肯定的評価をいただき、大変有意義な大会となりました。

(事務局 十日町市立川治小学校)



下越地区・阿賀野市大会

大会主題「多様な学びの場で、共に学ぶ特別支援教育の充実を目指して」の下、全体会と分科会を行いました。地区内外から小・中・特別支援学校の教職員、保護者、各関係機関等から二百二十六名を越える参加申込みがありました。

全体指導では、県義務教育課特別支援教育推進室指導主事 岡村浩之様より、「本県の特別支援教育の現状と課題」をテーマに、一人一人の教育的ニーズに応じた教育の実現について、具体的な資料を基に、ご講話いただきました。

①「校内支援体制づくり」
 ②「小学校特別支援学級での支援」
 ③「中学校と特別支援学級での支援」
 ④「通常学級での支援」
 ⑤「通級指導教室での支援」
 ⑥「家庭・地域での支援」

の六つの分科会では、発表者の具体的な実践をもとに、ファシリテーションや小グループでの話し合いを取り入れ、活発で有意義な話し合いが行われました。また、指導者からは的確な指導をいただき、充実した分科会となりました。参加者のアンケートでも、「体制の構築や指導の見直しについて、とても勉強になりました。」という声をたくさんいただきました。

問題意識をもった参会者の主体的な参加により、特別支援教育推進への課題解決意欲を高めることができた大会となりました。大会関係者の皆様に、深く感謝いたします。

(事務局 阿賀野市立神山小学校)



佐渡地区・佐渡市大会

「自立と社会参加につながる支援と連携」を大会主題に、全体会と分科会を行いました。全体会では、新潟県教育庁義務教育課・特別支援教育推進室指導主事の正田敦士様から「本県における特別支援教育の現状と課題」についてのご講話があり、その中で、「これからの特別支援教育は、学校・学級種別を越え、同じ土俵で考えていくべきである」とのご指導をいただきました。この点、本大会は実に多くの参加者を得、その考えに沿った大会になったと、自負しております。



講演会では、「キレイやすい子の理解と対応」というテーマで、早稲田大学教育学部・教育心理学専攻教授の本田恵子様から、アンガーマネージメントに関するお話をいただきました。参加者からは、「大変良かった、是非続きを聞きたい。」という趣旨のコメントが数多く寄せられ、反響の大きさを知ることができました。分科会は四分科会に分かれ、「ASD（自閉症スペクトラム）」「難聴児に豊かな言語活動を」（第二分科会）、「生徒の『できた』『わかった』を引き出す教材・教具の工夫」（第三分科会）、「卒業後の社会で生きる、具体的な支援と連携のあり方」（第四分科会）以上の各実践を元に、活発な協議が行われました。成功体験を蓄積させることと褒め方の工夫、児童・生徒に合わせた言語指導の工夫、毎日の生活がより豊かになることに着目した課題設定、就労を目標に社会的スキルの獲得を目指した支援など、大会主題に迫る実践の成果と協議の深まりを得ることができました。

（事務局 佐渡市立加茂小学校）

全特連

- 関プロ東京大会**（県内派遣：提案者1名 司会者1名 本部役員2名）
「共に楽しみながら新しい仲間つくる交流活動の在り方」
～地域の学校との交流活動を通して～ 県立上越特別支援学校 中川 恵美 教諭
- 全国山口大会**（県内派遣：提案者1名 本部役員1名）
「特別支援教育の視点を生かした指導・支援の在り方」
～高等学校での新たな取組「高等学校での通級指導について」～
新潟市立明鏡高等学校 渡邊佳奈子 教諭

関プロ東京大会に参加して

新潟県立上越特別支援学校 中川 恵美

第十一分科会「交流及び共同学習」で、共に楽しみながら新しい仲間をつくる交流活動の在り方について提案をいたしました。



当校小学部では、近隣の上越市立大和小学校の三年生と年に三、四回の交流活動を行っています。これまでの交流活動では、やることに追われて自分のことで精一杯になってしまいうる児童の姿や、お世話をする人、され方という関係性が課題でした。そこで、相互に関わり合える楽しい体験を通して仲間となる喜びを感じられるよう、「関わる時間の確保」「心が通う場面の設定」「共に楽しめる遊びの工夫」を行いました。協議では、他校の取組を聞き、知見を広げることができました。

指導助言の先生からは、何を学ばせるかを明確にすること、次は何が得意かを見極めることの重要性を指導いただきました。東京大会で得たものを、今後の教育活動に生かしていきます。貴重な機会を与えていただき、ありがとうございます。

全特連全国山口大会に参加して

新潟市立明鏡高等学校 渡邊佳奈子

山口県山口市で行われた第五十六回全特連全国大会山口大会の第四分科会「高等学校における特別支援教育」に提案者として参加いたしました。

本校は平成二十六年から文部科学省事業「高等学校における個々の能力を伸ばす特別支援教育」の研究指定を受けております。私はその研究の一つの柱、高校で自立活動を通級の指導することについて、実践の成果や課題などを発表させていただきました。参加者からは「実践していく上での苦労は何か」等の質問を受けました。



また、「高等学校で特別支援教育に取り組み意義について」や「高等学校で通級を行うために今必要なこと」について、指導助言をいただきました。平成三十年から高等学校の通級が正式にスタートしますが、高校の教員は私を含め、まだまだ戸惑いの中にいます。この会報を読まれている先生方には、ぜひ日頃から様々な面で連携し、お力をお借りできればと強く願っています。

祝 全日本特別支援教育研究連盟功労者表彰

小林 修 様

（前副会長 前三条市立三条小学校長）
長年にわたり、当県の特別支援教育の発展に貢献され、全国大会で表彰されました。

大会で表彰

29年度 研修部 研修の成果

● 知的障害部

ダウン症の書家・金澤翔子さんのお母様である金澤泰子様から「共に生きるくダウン症の娘と共に生きて」と題してご講演をいただきました。

授かった娘がダウン症と宣告され、日々涙に暮れていた当時の心境を吐露された上で、幸福感にひたる毎日を送る今の生活に至るまでのご自身の思いや考え、翔子さんの成長をお話しいただきました。

「苦しい闇に落ちこむときはあっても、必ず明るく大きな光がさし込む。できると信じて見守ることが大切」という言葉が参加者の心に響きました。

● 自閉症・情緒障害部

国立特別支援教育総合研究所発達障害教育推進センター総括研究員の横山貢一様より、「中学校の通常の学級で行う合理的配慮とは？」の演題で、ご講演をいただきました。

「合理的配慮」を中心に、各障害の特性や支援方法、新学習指導要領についても解説をしていただきました。

参加者からは、「障害は、環境によって障害でなくなるといふ言葉が心に響いた」「特性理解、合意形成、チーム等、キーワードを今後の取り組みに生かしたい」という感想が寄せられました。実践に繋がる研修会となりました。

● 言語・難聴部

東京学芸大学教授の澤隆史様より「『難聴児の発達と支援』ことばと自己認識を中心に」の演題で、ご講演をいただきました。

難聴児の発達課題は、聞こえる子どもとの情報のギャップ（深い意味・意図が入りにくい）が大きく、情報の量や質に対する自己認識が不十分であるが、通常（準ずる）教育が求められることです。解決するために、ことば・自己認識・社会性の力を高める必要があります。そのための指導内容、指導法の工夫等たくさん実践をご紹介いただき、とても有意義な研修でした。

● 肢体不自由・病弱・身体虚弱部

上越教育大学大学院准教授で、病虚弱児の発達について研究をされている八島猛様より「病弱者における自尊感情の発達特性」について講演をしていただきました。

青年初期の病虚弱児においても、肯定的な自己評価を形成することは将来的な適応・適応行動にとって極めて重要であることを教えていただきました。「学業」「友人」「運動」「外見」「行動」などの領域について、重要性に対する評価と自己の特性に対する評価が自尊感情の形成に強く影響します。したがって児童生徒が重要と感じている領域について承認的サポートをすれば適応行動に至ることなどについてお話しいただきました。

認めてもらいたいと児童生徒が感じているところを支援者が見取り、様子を合わせて支援し、自尊感情を高めていくことが大切であることを改めて認識させられる研修でした。

県特支研のHPをご覧ください



URL <http://www.niigata-inet.or.jp/kentokusiken/>
メールアドレス tokusi@niigata-inet.or.jp

全特連の関プロ東京大会・全国山口大会や各地区大会、研究部研修会の様子を紹介してあります。

平成29年度 新潟県特別支援教育研究会 地区大会の紹介	
1. 上越地区	上越支部大会 ○日 時 平成29年10月(木) ○会 場 リーフレンプラザ上越 上越教育プラザ 上越科学館 ○事 務 局 上越市立百葉小学校
2. 中部地区	十日町支部大会 ○日 時 平成29年11月24日(金) ○会 場 越後県有文化ホール「中央公民館(十日町)」 ○事 務 局 十日町市立川崎小学校
3. 上越地区	阿賀野市大会 ○日 時 平成29年11月27日(月) ○会 場 阿賀野市市民体育館 阿賀野市ふれあい会館 信濃中学校 ○事 務 局 阿賀野市立藤山小学校
4. 各県地区	各県支部大会 ○日 時 平成29年12月21日(月) ○会 場 高津地区(文化会館 公民館 総合体育館等) ○事 務 局 新潟市立加茂小学校



編集後記
県特支研だよりNo.116号をお届けいたします。お忙しい中、多くの皆様から、玉稿を賜りました。感謝申し上げます。本号が新潟県特別支援教育の一助となることを願っております。